

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 29 年 1 月 23 日（第 25 号）

発行：島田療育センターはちおうじ

「いのちの授業」を終えて、生徒は「いのち」や「障害」をどうとらえたのでしょうか？そんな感想を紹介します（その5）。

所長 小沢 浩

・自分が死ぬのに、他の人にも迷惑がかかる。わたしはいのちの授業を受けて、「こんなに大変な人たちがいるんだな」と思いました。でもみんなつらくても笑顔でがんばっている。

それがとてもすてきでした。わたしは、自分の生まれた子が死んでしまったら、自分も死にたいと思ったかもしれません。一人だと思ってたよれる人たちがいる。そんなことはわたしにはないかもしれません。でも一人でがんばるんじゃなくて、みんなでいっしょに協力していけば、いい思い出にもなるし、とても楽しいことになるかもしれない。

自分も希望をすてないであゆんでいこうと思いました。



・私は今まで、しょう患者というと「かわいそう」と言う言葉がうかんでいました。でも、今回「命の授業」でしょう患者も仕事を一生懸命やっているのを知り、しょう患者は「かわいそう」ではなく「すごい」と思いました。

私たち普通の人より困難なことが多い中、あきらめず働いていたからです。そして私たちと同じ生徒の生まれを知り、お母さん、お父さんと助け合って生きていこうと感じました。私にはお母さんがいませんが、生んでくれたことに感謝して、生きたいです。「いのちの授業」をやっていなかったら、親へのぼう言が大きくなっていったと思います。改めて家族の大切さを知ることができました。



・先日の命の授業では、ぼくたちが学校にいけることは、他の国では、あたりまえではないと思っている人がたくさんいることを実感させてくれました。障害の者や寝たきりの人の気持ちがある日によくわかったような気がします。目の見えない人は、見えないので、不安な気持ち、寝たきりの人は、せまい世界の中で自分一人のようなさびしい気持ちが理解できたと思います。

いろいろなことを感じさせてくれたいのちの授業。親にもぼくが生まれたときの気持ちを思い出してもらえるいいきっかけとなったと思います。いのちの授業でわかったことや知ったことの数にはわかりしれません。そのいのちの授業でわかったことや知ったことをこれからの生活の改善のためずっと、ずっと頭の中に入れておきたいなと思いました。

・「いのちの授業」をしてくださり、ありがとうございました。

お母さんに自分が生まれたときの話を聞いたとき、わたしは生まれてきて良かったと思いました。

「もしかしたら生まれてきていなかったかもしれない、生まれてきてくれてありがとう」

と言われたときは、涙が出そうでした。今は、反抗してばかりだけど、いつか

「生んでくれて、育ててくれてありがとう」

って言いたいと思っています。

・今回の授業を受けて、障害を持つ人も、私たちとあまり変わらないということがよく分かりました。同じ人なんだから、同じように接していけばいいんだということが改めてよく分かりました。私の妹は、軽いけど障害をもっていて、ふつうの子より少し遅れているため、修善寺中学校に行っています。昔何度か妹が少し遅れていることで他の人にかかわれたことがあって、私はとても悔しかったです。なので、今回の授業を受けて、改めて障害があってもなくてもあまり変わらないということを知ることができて、うれしかったです。

授業の中で、他の人たちが生まれたときの話を聞いて、生まれてくるために、お母さんが本当に頑張ってくれたおかげで、生まれてこれたんだなあと思いました。

生んでくれたお母さんのためにも一生懸命生きなきゃいけないんだと思いました。



(奇跡がくれた宝物 小沢浩著
クリエイツかもがわ より)

